

令和6年度 新入職員歓迎式典 理事長訓示

理事長の小口です

新年度の始まりの日に、新しい仲間を迎えることができ本当にうれしく思います。

原子力機構は国の原子力に関わる政策を受け、研究開発を通じてそれらを現実化する役割を担っています。

政府は2050年までにわが国においてカーボン・ニュートラルを実現する、そのために安全性確保を前提に原子力を最大限活用する、という大きな方針を示しています。

機構ではこれを受けて昨年4月新しいビジョンを打ち出しましたが、それは次の3つの分野から成り立っています。

- ① 再生可能エネルギーと原子力の相乗効果を追求する (Synergy)
- ② 原子力自体を継続可能なエネルギーにする (Sustainable)
- ③ 原子力を社会の幅広い分野で活用する (Ubiquitous)

この3分野にはイノベーションのチャンスが詰まっています。むしろイノベーションなくしてはどれも達成できないと思っています。皆さんにはこれからいずれかの分野で存分に力を発揮してもらうことになるでしょう。

また、原子力機構は新たな組織改編を実施中です。組織をコンパクト化し、各職員がそれぞれの分野で持てる力を十分に発揮できるよう様々な業務プロセスも変えようとしています。その中で、研究職や技術職、或いは事務職と言った職務区分による業務の形式的な線引きをやめ、さまざまな知見、知識をもつ機構職員がビジョンを共有し、その達成に向けて一丸になって邁進できる体制にしたいと考えています。

また、原子力を活用して脱炭素社会を実現するというのは今や国際的な取り組みです。原子力機構はこれまでも英米仏をはじめ各国の研究機関や政府組織と関係を深めてきましたが、これから原子力技術に関わるイノベーションが世界で爆発的に沸き起こるのは必定です。私たちはこの世界の動きに伍していかなければなりません。日々新しい研究開発に取り組んでゆかなければあつという間に世界から置いてきぼりを食らってしまうでしょう。原子力を巡る時計の針は福島第一事故でいったん止まっていましたが、今はその遅れを取り戻すかのように素晴らしいスピードで動き出しています。皆さんには是非ともその流れをしっかりと捕まえ、更にその先を行ってほしいと思っています。

その意味で皆さんはとてもラッキーです。皆さんが人生を賭けるに相応しい場はこの機構の中に用意されています。存分に力を発揮してください。

一方で、皆さんに注意をしてほしい点もあります。原子力は二面性を持っています。うまく利用すればとてつもなく大きな利益を社会に還元できます。しかしながら使い方をあやまればとてつもない惨禍を社会にもたらします。

私たちはそのことを福島第一原子力発電所の事故でいやというほど知らされました。事実わが国において原子力利用に関する民意は分かれています。しかしながら、私たちには日本社会を健全な形で次の世代に引き継ぐという大きな任務があります。そのために原子力の利用は欠かせません。

そのためにも社会の声を注意ぶかく聞き、社会と健全なコミュニケーションをとって、社会から受け入れてもらう努力をしなければなりません。そして社会からの信頼は一朝一夕に得られるものではないのです。

事故や災害を起こさない、約束事は必ず守る、そのような職員ひとりひとりの自覚ある行動を日々積み上げることで初めて社会から信用され、受け入れてもらえるのです。私たちは社会、とりわけ地域社会からの理解が得られなければ何事もなしえない、このことを皆さんは今日からしっかりと胸に刻んでください。

最後に、人生の先輩として一言アドバイスをしたいと思います。

みなさんがこれから業務に携わってゆくうえで必要な能力を端的に示せば次の3つになります。即ち、

- ①物事の本質を見極め、解決への道筋を思い描く能力 (Ability of how to Think)、
- ②考えたことを関係する相手方に正確に伝え、その理解を得る能力 (how to Communicate)、
- ③考え、伝えることだけでなく、最後には責任を持って必ず実行する能力 (how to Execute) です。

皆さんの大部分は学窓を去ってまだ間がありませんが、一方で、すでに社会で活躍してこられた人もいます。しかしながら、そのこと自体にあまり大きな意味はありません。問題は機構という大きな組織の中で何事かを成し遂げようとすれば、この3つの能力を磨くことが最短、最強の道になるということです。「ただ日々の業務に流されるのではなく」、「目標から目をそらすことなく」、そして「常に最善を尽くす」、このことの繰り返しによってのみ、大きな成果を上げられるものだと思いますし、それが皆さんひとりひとりの人生の満足感につながるものだと信じています。

皆さんが活躍する場を機構は用意しています。決して臆することなく、明確な目標に向かって堂々と歩んで行ってください。